

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	世界の教育事情				
担当者氏名	鈴木 伸尚				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	3年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門応用-1 国際社会に貢献できる人材育成 ○ 専門応用-3 コミュニケーション能力の向上				

《授業の概要》

世界の教育事情を見聞きすることは、日本の教育や学校に対する見方や考え方を広げることにつながる。本講義では、20世紀のはじめにフランスで始まり世界各地に広まった「フレネ教育」をひとつの題材として、ヨーロッパ、中南米、アフリカの教育現場を見ていく。

《授業の到達目標》

- ①自身が経験している教育や学校を相対化する視点を学び、自分の言葉で表現できるようにする。
- ②グローバルな社会現象の広がりを見すえながら、そこに共通する教育の問題を論理的に説明できる力を身につける。

《成績評価の方法》

平常点(毎回のふりかえり用紙)30%、提出物(中間・期末レポート)70%で総合的に評価する。

《テキスト》

教科書は指定しない。

《参考図書》

フレネ教育研究会編『フレネ教育ハンドブック—子どもが育つ学びのすじみち』フレネ教育研究会2016年、村田栄一『授業からの解放』雲母書房1995年、三脇庸生・岡田敬司・佐藤学編『学校教育を変える制度論—教育の現場と精神医療が真に出会うために』万葉舎2003年 ※学習テーマの理解を深めるため視聴覚資料を適宜使用する。

《授業時間外学習》

- ・レポート作成のための文献や資料を調べること。
- ・現代社会の動きや世界の出来事に関心を持ち、それについて自分の意見や思いを他人に伝えられるようにすること。

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について
2	日本の教育事情	生活に/から学ぶ—生活綴方から生活教育まで
3	フランスの教育事情①	戦前のフランス公教育—フレネ教育の誕生
4	フランスの教育事情②	戦後のフランス公教育—制度のベタゴジーはなぜ生まれたのか
5	フランスの教育事情③	現代のフランス公教育—都市と移民の子どもたち
6	イタリアの教育事情①	イタリアのフレネ教育—マリオ・ローディの仕事に学ぶ
7	イタリアの教育事情②	幼児教育を考える—レッジョ・エミリアのアプローチに学ぶ
8	イタリアの教育事情③	障がいのある子どもと教育—インクルーシブな学校と社会を考える
9	オランダの教育事情	子どもの多様な学びを支える—個性化教育とイエナプラン教育との交点
10	スペインの教育事情	学びとは何か①—社会的な自立（一人前になること）と教育
11	南米（ブラジル）の教育事情	学びとは何か②—識字教育（文字を身につけること）から考える
12	メキシコの教育事情	学びとは何か③—社会の格差（貧困の問題）から考える
13	アフリカの教育事情	学校に通うとはどういうことか①—就学・通学について考える
14	北欧（スウェーデン）の教育事情	学校に通うとはどういうことか②—オルタナティブスクールについて考える
15	まとめ	講義全体の振り返り